

下部消化管内視鏡検査に関する説明書・同意書

説明医師

検査目的

下部消化管内視鏡（大腸カメラ）検査は、肛門から小腸までの下部消化管（大腸・直腸）を内視鏡で直接観察して病气（ポリープ・がん・炎症など）を見つけ、適切な治療方法を考える為に行います。

検査の内容・方法について

検査前までに使用する機器の適切な選択と検査後の消毒の為、事前にウイルスなどの感染症（B型肝炎・C型肝炎・梅毒）を調べる為の血液検査をします。検査当日は、大腸を空にする腸管洗浄（腸管洗浄液服用）を行った後、内視鏡を挿入し検査を開始します。この時腸管の動きを抑える鎮痙剤の注射を行う場合があります。検査の所要時間は通常 20～30 分前後となります。また、必要時に粘膜組織の一部を採取したり、ポリープを認めた場合、小さなものはその場で切除（ポリペクトミー）し病理学的検査を行います。大きなポリープは後日入院での切除（粘膜切除術）を相談させていただきます。通常検査では鎮静剤使用の注意事項（裏面）を参照し十分理解の上、スタッフにお伝え下さい。（当日の病状など状況により鎮静剤使用を行えない場合もあります。）

検査により起こり得る偶発症

検査時には、稀に以下のような偶発症が起こりえます。

- ①、鎮痙剤、鎮静剤によるアレルギー反応（ショック）
- ②、出血（カメラの腸粘膜接触による出血、組織採取・ポリープ切除に伴う出血）
- ③、消化管穿孔（大きなポリープ切除時に確立が高くなり、穿孔時は緊急手術が必要となる場合があります。）

日本消化器内視鏡学会が調査した近年の全国集計では、偶発症の頻度は、0.078%、死亡率は、0.00082%と報告されています。ポリープ切除に伴う偶発症で最多は出血で発生率は、0.224%、次に穿孔で 0.0226%と報告されています。検査におかれましては細心の注意を払いますが、万一偶発症が発生した時には、外科的処置を含めた最善の処置を致します。

以上、下部消化管内視鏡検査の説明に関して、ご了承いただける場合は、下記同意書欄にご署名下さい。

尚、書類には同意されたとしても検査が開始されるまでは、いつでも撤回が可能です。

同意書

社会福祉法人 浅草寺病院 院長 殿

1. 私は、上部消化管内視鏡検査の目的、方法、偶発症などについての説明書の記載事項を読み、また医師からの説明にて、その内容を理解し了承しました。
2. 私は、内視鏡の感染防止の為の血液検査の必要性について、理解し了承しました。

以上、予定される検査及び関連事項について、よく理解できましたので、検査の実施を申し込みます。

平成 年 月 日

患者氏名

印

家族・代理人者氏名

印

続柄（ ）